



皇太子殿下御誕辰日

奉祝する廿三日の平

市長の奉祝辭と愛婦の祈願祭

皇太子殿下御誕辰の御慶賀... 奉祝する廿三日の平... 市長の奉祝辭と愛婦の祈願祭

木炭の増産奨励に

双葉郡甚だ振はす

十一月は十月より二千五百減

平木炭検査支所管内石城一團... 双葉郡甚だ振はす... 十一月は十月より二千五百減

田中技師の

北支赴任變更

今月末平引上げ... 田中技師の北支赴任變更

掉尾の市會

二十四日

午前十時招集... 掉尾の市會

壯途に向ふ解消に

相結ぶ丈夫の花

黒髪を断つて千人針の胴巻

石城郡勿來町の窪田赤津要人... 壯途に向ふ解消に

不在を窺ふ手段

此の手で盗みを働く女賊

小名濱町の下明神町野口... 不在を窺ふ手段

コンスタンシャルは恒久的、不變、不撓の意... 識談

早く野戦に出る

砲彈の洗禮を受度

平市杉中出身 笠原 三男... 早く野戦に出る

出兵の目的達成に

横田 寅太郎

平市正月町出身... 出兵の目的達成に

何より恐い地震の話

抄録) 半谷 生

一休地震に由つて起る震源... 何より恐い地震の話

赤皮トランクで

贓品を賣歩く

平市南町の井坂古着店... 赤皮トランクで

四年生の獻金

軍後へ五十圓

平第一校四年の一生生天目徳治... 四年生の獻金

報勞金を献納

石城郡田町の裁縫女學校生

石城郡田町の裁縫女學校生... 報勞金を献納

軍事講演と映畫

雲州神國印ソロバン

今十六日午後六時から平市公會堂に於て朝日の後軍記者による軍事講演會と映畫會を催される來場を歓迎すると

新農業の旗

凶作が力づける
新農業の旗

縣立農業寮から
集立つた中堅で
凶作から救起して食ふに米
がなく買ふにも物かなき農村
が草根木皮を食の代用とし娘
を賣つて辛ふして糊を渡いた
飢饉地獄を浴びた昭和九年に
續く同十年の冷害凶作に遭ひ
農村の疲弊が豫想以上に深刻
であるのに直向した宮城縣當
局は隨分不動の日本精神によ
つて置かれた大地に立つ中堅
青年を養成して近代科學の粹
を取り入れた合理的な多角綜
合的農業經營法の確立の完備
を期せばならぬと云ふ意味か
ら農民運動官城縣立農業寮が
昭和十年三月に創設された。
同寮は仙台市の西北方二里
余、裏表日本を裁斷する奥
羽合水嶺の山裾に起伏する
海拔五、六百メートル、圓
繞する遊山に抱かれた田で
湯の作並高原、同縣の宮城
郡廣瀬町下愛子に輝く明日
の日本農業を双肩に擔ひ支
那大陸に奮闘する皇軍將士
に劣らぬ眼切り方の氣持ち
で平均十七、八才の三十餘
名の若き農業の戰士が起居
してゐる、雨天の日は農業
基礎理論、各種栽培法、産
業組合、共同作業場の經營
法から手工、音楽、書法、作
文、珠算、東西歴史、郷土
史等の學科並びに武道、体
操、教練と文字通りの心身
總動員に、
午前四時半にドン〜ドン
と高原の靜寂を破つ
て大太鼓が鳴り響く、五時半
白木造りの御氣彩奉安殿の前

に集合する

ツルヤ
電話一四〇
豐富陳列
漸新型

皇軍戰勝二冬品會の第一線に立つ

子供帽子 中折帽子

山野製藥局

五丁目角

平市

四〇瓦入 五十五
八〇瓦入 九十五
一〇〇瓦入 二四十五
一五〇瓦入 三九十五

山野製藥局

産科 院長 木村寅次郎
婦人科 醫學博士 内木宗八
外科 藥劑師 大岩俊雄

平市新川町九一
入院隨急
病室完備

木村病院

電話一六四

和洋鋼鐵、金物問屋

店南屋釜

九九・九電

表代城磐
酒銘

美味佳釀
酒油昔のヤマ

社會名合崎山
番十話電

專門 皮膚科 泌尿科 性病科

診療時間 午前八時より
午後九時まで

醫學博士 江尻伊三郎

平市田町 電話六九一番

院醫尻江

類品洋とンバカ

眞砂屋

（前驛市平）
り通道新

（話電）
（五六）

（酒銘）

安達郡二本松町
太田七右衛門醸造

最高首席優等賞受領

全國酒類品評會

大藏省主管

新いわき新聞社

女店員一名 募集す

平市三丁目
電話九九番

丸はん商店

右御希望者は「職歴紹介所」
又は當方へ直接御來談下さい

募集いたします

年齢十五才以上十八才まで

初任級最低日給金五十錢以上

希望者には寄宿舎の設備あり

退職手當その他福利設備あり

丸はん家具製作所

平市新田前 電話一八二番

通勤で給金を貰ひながら
技術者に成り度い青年を

多少共経験ある者には
年齢を問はず
給金を別に定めます